

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自主自立の精神を培い、違いを認め合う豊かな人間性と確かな学力を身につけ、社会における個人のあり方を考えられる生徒を育てる。

- 1 地域に根差し、家庭や大学等と連携して吹田東ならではの豊かな教育環境を築く。
- 2 自ら学び、理論的に考える態度をはぐくむ、特色ある吹田東の「学び」を確立する。
- 3 安全で安心の中で、一人ひとりの生徒が活躍できる吹田東をめざす。

2 中期的目標

新しい校舎への建て替えの機会を生かし、吹田東高校の組織的な教育活動の確立をめざす

- 1 次期学習指導要領を見据えて、生きて働く「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現等」の育成をめざす。アクティブラーニング等の導入による生徒の授業への参加意欲の向上。授業形態の工夫や ICT 機器の効果的活用から、興味・関心をもてる授業、知識・技能が身についたと感じる授業をめざす。
 - (1) 指導と評価の年間計画（シラバス）を、年度最初の授業で、生徒に説明する。
 - (2) 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価（観点別評価）の工夫を図る。
 - (3) アクティブラーニング等により生徒の授業等への参加意欲を向上させる。授業形態の工夫や ICT 機器を効果的に活用した授業実践を推進
※授業への参加意欲を向上させることにより、生徒向け学校教育自己診断における「全体として授業に満足している」の肯定的回答（平成 29 年度 57.7%）を、2020 年度には 70%にする。指導と評価の年間計画（シラバス）は役立っている肯定的回答（平成 29 年度 54.3%）を 2020 年度には 60%にする。
- 2 確かな学力や高い志等をもてる学習支援
生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。大学との連携、外部施設も積極的に活用を検討する。
 - (1) 進学実績等で達成感を維持する。国公立関関同立産近甲龍 150 名。
 - (2) 教科として講習の実施について年間計画を策定する。土曜講習の中に青葉丘セミナー（大阪大学との連携セミナー：大阪大学生が補助で入り込み）を設定する（1、2年）。
※生徒向け学校教育自己診断における「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答として平成 29 年度 90%を維持する。
 - (3) 漢字検定を 1 年、GTEC を 1、2 年生、全国レベルの模擬試験を 2 年全員受験させる。
※生徒が達成感を持って、漢字検定に取り組むよう、総合と国語科授業で連携しながら前年度より 3 級不合格者を減少させる。GTEC の有効性活用を検証し、新しい大学選抜制度にかみ合う取組みを検討する。また、3 年次の進路指導において、模擬試験の結果を有効活用する。
 - (4) S 講座（外部講師が本校で講習をする実力養成講習）を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する
 - (5) 成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科実施する。1、2 年は土曜講習などの中に青葉丘セミナー（大阪大学との連携セミナー：大阪大学生が補助で入り込み）を設定する。
※成績不振による原級留置者 0 名を目標とする。
 - (6) 図書室、自習室の利用促進を図る。
- 3 豊かでたくましい人間性をはぐくみをめざす。生徒が自信をもって社会に巣立つ学校づくり、自尊感情の育成・自己肯定感の醸成
 - (1) 基本的な生活習慣を確立させ、生徒相互にも気持ちを伝え合える環境づくりをめざす
あいさつ指導、遅刻指導、服装指導、ベル着指導（チャイムと同時に授業開始）をおこなう。
※積極的にあいさつ、声掛けを心がける。年間遅刻数（年間一人平均 1.0 回）以下を維持する。
 - (2) 社会で通用する人材を育成するため、様々な事柄に疑問を持ち、それを解決する力をつけさせる。そのため、3 年間の LHR や授業で、主体的で深い学びが持てるよう検討を進める。
 - (3) 教育相談を充実させ、課題を抱える生徒の個別の支援教育活動を充実させる。健康を適切に管理し、改善するための資質や能力を育成する。
「担任の先生は気軽に相談できる。担任の先生以外に、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定的回答を 2020 年度 63%（平成 29 年度 53.3%）をめざす。
 - (4) 学校生活を快適に過ごせるよう、新校舎の教室等の施設設備の充実を検討するとともに、現校舎の整備と美化に努める。
 - (5) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。
 - ・特別活動を活性化。そのために、学校行事、学年行事、部活動を活用する。
 - ・生徒委員会活動等を活性化。 (図書委員、保健委員、HR 代表、庶務委員会、体育委員、風紀委員、合唱委員、文化委員)
 ※生徒向け学校教育自己診断における「クラスの活動に積極的に関わっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答について 2020 年度 75%をめざす。
- 4 開かれた学校づくりと広報活動等の充実
 - (1) 開かれた学校づくりとして、学校行事等の公開。地域及び地元幼小中学校との連携を図る。
 - (2) 本校の特色を活発に広報等する。
 - ・ウェブページ、本校の学校紹介のパンフレット、プレゼンテーションソフト、DVD を適宜更新するとともに、中学校、塾の訪問を継続実施する。
 ※新入生アンケートの「吹田東高校のホームページを見たことがある」の回答（平成 29 年度 82.5%）を引き上げ、2020 年度には 85%以上にする。
- 5 人材育成への取組
 - (1) 設立 11 年目を迎える GUTS（若手塾）の取組みで経験の少ない教員の育成に力を入れる。
 - (2) 経験豊かな教員の知識等を、後進教員へ生かす取組みを実現し、ミドルリーダーの育成を図る。
 - (3) 働き方改革の推進。
- 6 個人情報等の適正な管理
 - (1) 個人情報等の適正な管理を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に昨年より肯定的回答の値は若干下回っている。 ・「吹田東に進学して(させて)よかった」の肯定的回答は生徒の方は昨年より低くなっているが学年が上がるに連れて高くなっている。保護者は 8 割超えている。 ・授業の満足度については生徒・保護者共に肯定的回答は低い結果だった。生徒の授業アンケート結果からも、生徒が期待するものと、こちらが身につけさせたい内容に違いもあると思うが、今後も検討、改善に努めていきたい。 ・学校行事、部活動への取り組みについては生徒・保護者共に多くが「積極的に参加している」と回答している。今後も学校行事の充実と部活動の活性化について取り組んでいきたい。 ・進路指導の取り組みについて、生徒の肯定的回答は約 7 割と高いが、保護者の連絡、意思疎通の肯定的回答は 6 割弱と低いので、生徒にも必ず情報等、確実に連絡するよう指導していく。 ・生徒指導については、記述のアンケートでは「厳しすぎる」という意見と「今の指導で」という意見がいくつかある。保護者の約 7 割が共感できるという回答になっている。学校説明会でも生徒指導の方針については毎回説明しているが、今後も落ち着いた環境で授業や学校生活が送れるように指導していきたい。 ・「Web ページを見るか」の肯定的回答は、保護者・生徒共に非常に低い。情報提供を携帯メールで行っているが、そちらの保護者の肯定的回答は非常に高かった。今後は Web ページでの情報提供も有効的に活用できるように工夫し、災害時の連絡方法等も再検討し改善していきたい。 	<p>第 1 回（平成 30 年 6 月 22 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期的目標にある「様々な事柄に疑問を持ち、それを解決する力をつけさせる」ということは、なぜ勉強するのか将来何をめざすのかというようなことも含めて大事な事だと思う。これについては、会社でも新入社員にまず身につけさせたい力で、その手法が OJT である。学校でも何かシミュレーション的なもので経験させられる取り組みがあればいいと思う。 ・オーストラリア語学研修の取組等は、将来留学したい、英語を使った仕事がしたいというような興味付けになっていると思う。業者に依頼して英語科教員の負担軽減になることは働き方改革にも関わる。 <p>第 2 回（平成 30 年 11 月 29 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の中、生徒の為にそれとは相反することをしなければいけなくなり、業務が増えてきていると思うが、いい教育を進めていくためにも教員数を増やす要望していくべきである。 ・授業改善に向けて ICT を活用した合理化もすすめてほしい。 <p>第 3 回（平成 31 年 2 月 22 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生もまず、やるべきことをしっかりおこなえばいいと考える ・生徒は厳しいから話しづらく思っているようだが、実際はそうではなく厳しいからこそ何かあれば相談に乗ってくれるということが生徒に伝わればいいと思う。 ・学校では何かを止めるという事がほとんど無く、いいものはどんどん取り入れていくと業務量は年々増加していく。会社では生産性の低いものは止め、高いものしか残さない。そうすれば減るものができる。いろいろな要望に答えていくのも仕事量の増加につながっている。

府立吹田東高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
次期学習指導要領を見据え、アクティブラーニング等の導入	(1) シラバスの説明 (2) 次期学習指導要領の研究及び資質・能力の育成につながる多面的・多角的な学習評価(観点別評価)の工夫を図る。 (3) アクティブラーニング等により生徒の授業等への参加意欲を向上させる。	(1) 年度初めに、科目毎に作成したシラバスを配付し、内容、評価の仕方等を理解させ、学習に生かす。 (2) 次期学習指導要領の研究及び各教科科目の観点別評価の検討を行い、シラバスに反映させる。 (3) グループ学習等のアクティブラーニングや、ICTの効果的な活用で、授業等への参加意欲を向上させる。 ・授業改善委員会を中心に、授業アンケート、授業観察シートを、授業改善に活用する。 ・ICTを活用した公開授業を、公開授業週間に全教科で実施する。ICT(電子黒板、プロジェクター、TV、ビデオ、書画カメラ、パソコン、タブレット等)を活用した教材開発とその共有化を進め、授業で活用する。	(1) 自己診断における、「シラバスは役立っている」の肯定的回答を、55%以上をめざす。 (2) 次期学習指導要領を考えたカリキュラム編成に向けた教科会議を行い、シラバスに反映する。 (3) 授業アンケートで、興味・関心、知識・技能の全体平均を、平成29年度より向上。2回目において、全体の平均値の向上。 ・授業観察シートの活用度向上。 ・教員相互の授業見学実施率95%(平成29年度91%)	(1) 48.1%【△】 (2) 教科会議の結果をカリキュラム委員会で集約して検討中。観点別評価を取り入れたシラバスは作成済み【○】 (3) 興味・関心、知識・技能3.09(昨年度3.08)、2回目3.08←3.09【△】、授業観察シートの活用【○】 ・授業見学実施率93%【△】
確かな学力・高い志をもつ卒業生を	生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。大学との連携、外部施設も積極的に活用を検討する。 (1) 進学実績等で達成感を維持する。 (2) 教科で講習の年間計画の策定実施 (3) 漢字検定(1年)、GTEC(1・2年)、模試(2年)を全員受けさせる。 (4) S講座を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する (5) 成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科実施する。 (6) 図書室、自習室の利用促進	(1) 進学実績等で達成目標を設定する。3年間の進路指導計画を活用し、自宅での学習習慣の確立や講習への参加促進のため保護者との連携を強化する。 ・進路指導部が卒業生の進路状況を分析し、教職員全員参加の情報交換会を行う。 (2) 年間通して土曜日、平日放課後、早朝の講習と夏季講習を実施する。土曜講習の中に青葉丘セミナー(大阪大学との連携セミナー:大阪大学生が補助で入り込み)を設定する。 (3) 漢字検定、GTEC テストを実施することにより、資格取得と次への意欲喚起を行う。模試を全員受検し、進路意識を高める。 (4) 外部講師に対し、指導方針をたて効果がえられるようにする。講習参加者が最後まで継続できるようにする。 (5) 指名補習を実施し、基礎的な力をつけさせ、単位の修得を図る。 ・単位修得に向けて週末の家庭学習の定着を図るため、総合の時間で基礎学力診断テストを実施し、成績不振者は宿題等個別指導をする。 (6) 図書室の蔵書を使って生徒が調べ・学ぶ授業を増やす。 ・生徒の心の糧となる読書をすすめる。自習室の利用促進を図る。	(1) 国公立・関西私立大(関関同立産近甲龍)現役合格者数130名の維持・3年間の進路指導計画の効果的実施の実現。 ・学校生活実態調査や模試結果の有効活用を更に図る。 ・進路ガイダンス等の回数の増加・授業以外の学習時間1時間以上の生徒増加(平成29年度9月1年52%、2年46%、3年85%) (2) 「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答(平成29年度91%)を維持。 (3) 漢字検定3級の合格率90%をめざす。(H29年度62.6%) GTECで、目標1年生平均380点、2年生平均400点 (4) 欠席者に対して、出席喚起連絡する等支援を行う。欠席者数減。 (5) 成績不振による原級留置者0人 (6) 総合の時間等授業で、図書室利用を図る。生徒図書委員による図書館便りの発行。来室生徒数、貸出冊数の増1400冊(H29年1223冊)・自習室を活用して学習習慣を定着させる。利用1日平均12人以上(H29年10名)。	(1) 115名【△】 進路ガイダンスについて回数増+内容充実。進路指導は、昨年より進路決定が早い等の成果をあげている。【○】 自己学習(1年48%、2年46%、3年81%)【△】 (2) 83.4%【△】、青葉丘セミナー6回実施、参加者211名【○】 (3) 漢字検定65.7%【△】 GTEC1年平均390.7点、2年405.5点【◎】 (4) 1年の欠席者は増えたが、2・3年の欠席者が減少している。【○】 (5) 1名【△】 (6) 昨年以上に授業等で図書室活用 来室生徒数増、貸出冊数1273冊 自習室の利用は平日平均約10名だったが、図書室・教室で自習する生徒が増加【○】
生徒が自信を持って社会に巣立つ学校づくり・自尊感情の育成・自己肯定感の醸成	(1) 基本的な生活習慣を確立させ、生徒相互が気持ちを伝え合える環境づくりを行う。 (2) 社会で通用する人材を育成するため LHR や総合的な学習の時間の有効活用を行う。 (3) 教育相談を充実させ、課題を抱える生徒の個別の支援教育活動を充実させる。健康を適切に管理し、改善するための資質や能力を育成する。 (4) 学校生活を快適に過ごせるよう、教室等の施設設備の充実と美化に努める。 (5) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。 ・生徒委員会活動等を活性化させる。	(1) あいさつ、声掛けを行い、遅刻指導、服装指導、ベル着指導・遅刻者に対しては、段階的な指導を行う。 ・服装指導の高い評価を継続する取組み推進 (2) LHR 計画や総合的な学習の時間で、志(こころざし)学に取り組む。特に人権尊重の取組み、防災教育の取組み、キャリア教育、健康教育を推進する。国際理解教育の一環として、海外の高校との交流・語学研修、校内語学研修を実施し、その成果を共有化する。 (3) 教育相談について生徒に周知し、相談しやすい雰囲気をつくる。 ・高校生活支援カードの有効利用。 ・定期的な教育相談委員会の開催により、支援の必要な生徒を早期に把握し、適切な支援を行う。必要に応じて外部機関や専門家との連携を図る。検診時を、「健康教育の場」と捉え、事前事後指導を充実させる。 (4) 定期的な大清掃と学校行事前の一斉清掃に取り組み、快適な学習環境を整える。清掃用具の配備、適時補充も行い、生徒並びに教職員の美化意識を高める。 (5) 学習活動を中心にした上で、学校行事・部活動に取組ませることで企画・運営力を育成し、達成感を持たせる。 ・クラブ代表者会議を通じて、生徒のリーダーを育てるとともに、部活動を活性化させる。 ・各生徒委員会を指導する分掌や係を明確化する。それにより、生徒委員会活動を活性化させる。(図書、保健、HR代表、庶務、体育、風紀、合唱、文化)	(1) 年間遅刻数(年間一人平均1.0回以下)を維持(平成29年度0.92回)。授業中の服装指導、ベル着指導の実施。 (2) 1年次に生徒同士の集団づくりや俳句創作や発表の機会を設ける。 ・オーストラリアとの交流・語学研修実施。希望者10名以上(H29年9名) ・学校での英語語学研修の実施。 (3) 「担任に気軽に相談できる。担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」(H29年度53%)の肯定率を上げる。 ・検診結果から個別の保健指導を行う。特に歯科の追跡指導について年7回以上指導する。 (4) 清掃習慣の定着に向けた取組み推進。清掃場所に応じた清掃用具の配備と点検を行う。 (5) 「クラスの活動に積極的にかかわっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答が多数を占める。 ・新入生の部活動加入率の増加(平成29年度87.8%) ・生徒委員会活動の年間計画どおりの実施。	(1) 一人平均0.99回。災害の影響もあり、昨年度より多いが10月以降改善された。【○】 (2) 1年次、授業におけるグループワークを活用した集団作りや、授業での俳句指導を行い、外部のコンテストに出品し入選多数【◎】 ・オーストラリア語学研修参加者16名。 ・ESP(English Summer Program)を夏季休業中に3日間実施(参加3講座36名)【◎】 (3) 48.7%【△】 ・歯科追跡指導7回実施【○】 (4) 新しい清掃用具の配備を実施し、定期的な点検を行い、清掃習慣の定着に向けた取組みとして大掃除の際に、その月ごとの『テーマ』を決めて、清掃を実施することを推進した。【○】 (5) クラス活動69.2%、生徒会活動70.9%【◎】 新入生の部活動加入率89.4%【○】 生徒委員会活動【○】
開かれた学校づくりと広報活動等の充実	(1) 開かれた学校づくりとして、学校行事等の公開。地域及び地元幼小中学校との連携を図る。 (2) 本校の特色を活発に広報等する。	(1) 体育祭、文化祭等学校行事の公開・クリーンキャンペーン(地域清掃活動)などで、地域連携の活性化を図る。 ・中学校との相互の公開授業を行って教員の授業力を向上させ、生徒の授業理解度を高める。 ・大阪大学等との連携を継続する。 ・地域教育協議会等に参加し、その行事への生徒の参加を促す。 (2) 広報渉外等を、校務運営委員と、副担、新任4年目迄及び有志教員で構成するGTOで運営していく。分担すべき内容についても、見直しを行う。 ・ウェブページに、情報を発信する。在校生保護者への広報活動も充実させる。 ・学校説明会等で使用する本校紹介プレゼンテーションソフトやDVDをさらに魅力あるようにバージョンアップする。 ・中学校訪問、塾訪問を継続実施し、情報収集と広報に努める。	(1) 体育祭、文化祭等行事への地域からの参加者数の増加。 ・地域教育協議会等への参加等を昨年と同程度確保。地域と保護者との合同企画も継続実施する。 ・クリーンキャンペーンの参加者350名以上(平成28年度423名)。 ・中学校公開授業参加者数10名(平成29年度5名) ・「本校のホームページを見たことがある」の回答(平成29年度82.5%)を引き上げる。 (2) 全教員による中学校訪問の実施。(平成29年度ほぼ全員)ウェブページの更新を組織的に行えるように、改める。更新回数月2回以上行う。	(1) 体育祭の地域からの参加者10名、文化祭の地域からの参加者30名、中学生及びその家族参加者140名【○】 ・クリーンキャンペーンの参加者は257名。当日は公式戦や大学入試プレテストと重なり、予定人数を下回りコンパクトな形での実施となったが、台風の後片付け等、昨年より充実した活動ができ、地域交流が深まった。【○】 ・ホームページの閲覧78.1%【△】 (2) 中学校訪問をほぼ全教員で実施。ウェブページの更新は細部を含めて4月から20回以上実施。【○】
人材育成への取組み	(1) GUTS(若手塾)の取り組みで経験の少ない教員の育成に力を入れる。 (2) 経験豊かな教員の知識等を、後進教員へ生かす取組みをする。 (3) 働き方改革の推進	(1) 校内研修において、参加体験型の研修を中心に、今後直面するテーマを取り上げて、OJTを進める。 (2) GUTS(若手塾)等で、経験豊かな教員が研修講師を務める。公開授業等の実施。ミドルリーダー育成を図る。 (3) 校内組織等の見直しを行い、教員の働き方改革を進める。 ・ICTを活用した情報共有を進める。	(1) GUTS年間8回以上(平成28年度9回) (2) ミドルリーダー等経験豊かな教員が、研修講師又は公開授業の実施などの機会を、年2回以上設定する。 (3) 超過勤務の平均時間10%減、長時間勤務者の減少を図る。	(1) GUTS8回実施【○】 (2) 4回【◎】 (3) 1人当31.4時間/月(昨年度1人当31.8時間/月)。災害対応、新校舎建設、新学習指導要領導入、組織改変等業務が増え、超過勤務及び長時間勤務者数が増加38名(昨年度26名)【△】
個人情報管理	(1) 個人情報の適正管理を行う。	(1) 個人情報の適正管理を行う。	(1) 個人情報管理表を基に、当年度廃棄分の適正処置実施。各部屋の当年度管理責任者を確認、引き継ぎを文書で実施する。	(1) 実施している【○】